ハイブリッド 仮設防護柵を共同

CBA J

総会・春期溝習会開く S改正 方針を解説

見直し、昨年立ち上げた

り組んでいく。

進運動の活性化などに取

22年度は委員会体制を

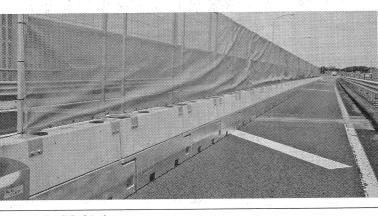
コンプライアンス幹事会

の配下に全充填型ブロッ

で工業会役員を退任した

審議終了後には、5月

オリエンタル白石・NEXCO西日本 コン・



車線幅減少に伴う規制速度低下を抑制

リエンタル白石(東京都江東区、大野達也社 える高速道路の大規模更新をはじめとした都市 もに、製品幅を350%に抑えることで、車線 柵「ハイブリッドスリムガード」を開発した。 製品と鋳鉄部材を組み合わせた車両用仮設防護 社長)はこのほど、プレキャストコンクリー・ 長)、西日本高速道路(大阪府大阪市、前川秀和 圏などの高難度工事の円滑な遂行に貢献する方 同製品の普及を図ることで、今後、ピークを迎 幅を確保しながら工事を進めることができる。 局速道路に設置が可能なSB種に対応するとと ケイコン(京都府京都市、荒川崇社長)とオ

供用車線部の交通への影 規制速度の低下を抑制 規制時の暫定車線におい 置き式仮設防護柵。車線 を実現したSB種対応の し、施工期間中における て、車線幅の減少に伴う -ドは350ずの製品幅 とができる。 ークリフトでの組み立て

ハイブリッドスリムガ 響を最低限にとどめるこ トラッククレーンやフォ ラスマイナス2・0%ま で対応できる。製品重量 は1基2・4小。搭載型 が、 縦断勾配の変化はプ 平面線形は曲線半径20

> 省 交

り、設置や撤去が容易に ・移動が可能となってお

8

野市)で採用されてお 速道路発注の「多摩川橋 県和歌山市)や中日本高 発注の一松島高架橋他9 り組んでいく。 向けて積極的に拡販に取 た幅広い工事での採用に タル白石は同製品に適し 床版取替工事」(東京都日 稿橋梁更新工事」(和歌山 すでに西日本高速道路 ケイコンとオリエン

るため施工期間中でも上 新事業の場合、渋滞など 事業では、上下線4車線 の社会的影響を最小化す 量の多い都市圏内での更 する事例が多いが、交通 区間の施工ヤードを確保 を対面2車線として施工 下線4車線を確保するこ 高速道路の大規模更新

とが求められる。

を確保するためには、仮 車両幅員方向に分割して 般供用車線と工事範囲を 車線幅確保が難しくなる 000 がで、4車線分の 柵の製品幅は550~1 従来の置き式車両用防護 施工する必要があるが、 ケースがあった。

的な影響の最小化につな 拡幅や迂回路の確保によ 迂回路の確保が困難な場 どで拡幅できない場合や 橋梁構造上や用地関係な 全体事業費の削減や社会 確保ができることから、 工期間中の断面交通量の り行っていた工事におい 能となる。また、従来、 合でも4車線の確保が可 ても事前工事の削減や施 ードを使用することで、 ハイブリッドスリムガ

がる。

ど幅広い用途が期待でき 長)としている。 及に取り組んでいきた 制や災害時の車線規制な 新を中心として、路肩規 品事業部執行役員営業部 い」(ケイコン・南光城製 ることから、積極的に普 高速道路の大規模更

定、試験施工などを実施 を設置して公募や工法選 していく方針だ。 国交省は2019年10

も長くするなどの減災効

果を発揮する粘り強い構

造の河川堤防の整備を危

機管理対応として実施す

べきとしている。

方で、粘り強い河川

洪水被害の軽減に向け た河川堤防に関する技術 検討会」を設置してい 20年2月に「令和元年台 東日本台風」を受けて、 風第19号の被災を踏まえ

次 製 品 談 話 室

種会合や講習会の開 団体が『開店休業』状 態となったが、当工業 会はリモートによる各 「コロナ禍で多くの 報発信など活発な活動 力、機関誌を通じた情催、関連団体への協

緩やかな

C 佳 B 雄 会

ートブロック工業会

(JCBA) の栁澤佳

のは全国建築コンクリ を継続できた」と話す

対策の大原則としつつ、 は、洪水時の河川水位を られた検討会の報告書で みとして河川堤防を越水 緊急的・短期的な取り組 下げる対策を今後も治水 するまでの時間を少しで 壊しにくく、堤防が決壊 した場合であっても、 20年8月に取りまとめ 雄会長。5月27日の定 決

発機構教授)の初会合を 関する技術検討会」(座長 ·山田正中央大学研究開 国土交通省は5月20 一河川堤防の強化に 粘り強い河 民間技術公募に向け議論 JII を公募する予定であり、 堤防 開発

玉

えで民間企業などの技術 や公募条件を提示したう にあたっては、要求性能 今後、第三者機関である 「導入支援機関(仮称)」 月に発生した「令和元年

開いた。越水に対して

の安定性を長期的に維持

る性能の具体化や構造物

ことなどから、必要とな

果や幅に不確実性がある 堤防は越水した場合の効